

コラム 人生課長の独り言～一歩進めるためのヒント～

実践上の4つの視点で抽象化する

これまでも学校は先進的な取組や、〇〇メソッドとか△△法など、新たに開発された方法を取り入れることで改善を進めてきました。このやり方で改善がうまくいったのは、児童生徒の学力や経験、教師の経験値に現在ほど差がなかったからではないかと思います。

しかし、現在は多様化が進み、場合によっては同じ学校であっても隣のクラスと実態がかけ離れている場合もあるでしょう。そのような状況下では、実践を具体のまま持ち込むやり方では思ったような効果が生まれないということになります（①の矢印）。



では、どうするか？研究会などで素晴らしい実践Aを見た時、まず、そこに込められているポイントを抽出し（②の矢印）、そのポイントを生かして自分だったらどう取り組むか？クラスの実態にあわせるとどうなるか？を整理（私的言語化）（③の矢印）して、自分なりの実践Bに落とし込む（④の矢印）という手順が必要になります。個人に限らず、学校間での実践の取り込みも同様です。結果、実践Aと実践Bは全く異なった取組になる可能性もあります。一見、遠回りのようですが、この手順が必要不可欠であり、今回のテーマである「意図的に組み込む」という作業にも重なります。

そして、抽象化する視点として、「生徒指導の実践上の4つの視点」を活用すれば、どんな学校でもどんな教科でも汎用性のある知見としてポイントが抽出され、その場、その時にあった実践へと繋がっていくのではないのでしょうか。これも生徒指導の実践上の4つの視点を「共通言語」として考えることの価値の一つと言えますね。（高橋）

人権教育・生徒指導課のホームページもご覧ください。
<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/350/>



Vol.19

発行日 令和7年12月

岡山県教育庁 人権教育・生徒指導課

生徒指導 Leaflet @ OKAYAMA リーフ

誰一人取り残されない岡山県の教育に向けて

授業の中での 生徒指導（補足）

Vol.6～8では「授業の中での生徒指導」について、まずは日々の教育活動が生徒指導でもあることを「意識する」ことが大切であるとお話させていただきました。
今回は、一歩進めて、取組の効果を高めるためのポイントについて補足したいと思います。

岡山県教育庁
人権教育・生徒指導課

〒700-8570
岡山県岡山市北区内山下2-4-6
Tel:086-226-7589 Fax:086-224-2134

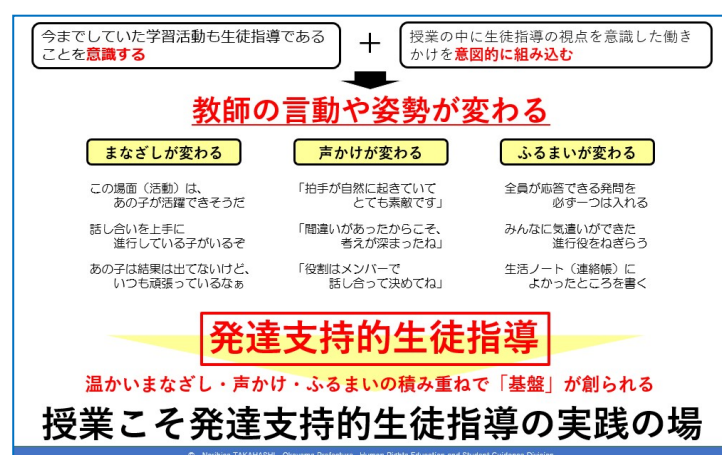
Q.「授業の中の生徒指導」を具体的な取組にするための方法がありますか？

A.「授業の中での生徒指導」とは、日常の授業における工夫や配慮が「生徒指導でもあると意識する」ことから始まるというお話をさせていただきました（Leaflet Vol.6～8参照）。まずは、授業中の工夫や配慮を「生徒指導の実践上の4つの視点」に照らして意味づけてみるという段階です。

次の段階は「意図的に組み込む」というステップだと思っています。

「あれは自己決定の場だった」と後付けするのではなく、「子どもが自己決定できるためにはどうすべきか」と教育活動の中に「意図的に組み込む」必要があると思います。

「意識する」＋「意図的に組み込む」の2つにより、授業を行う教師の言動や姿勢が変わり、児童生徒との関係が温かいものになる。これこそ、発達支持的生徒指導の目指す姿【図1】なのです。



【図1】「意識する」＋「意図的に組み込む」

「意図的に組み込む」とは…

グループでの話し合いの場面で考えてみましょう。例えば、「自己存在感的感受」を重視した話し合いでは、司会や記録などの役割分担を明確にすることや一人ひとりの個性が発揮できるような場を提供するなど、取り組み方が変わってきます。また、「安全・安心な風土の醸成」を重視するならば、話し合いのルールを明確化したり、いきなり全員ではなく、まずペアで考える時間を確保したりする。また、「共感的な人間関係の育成」を目指すならば、多様な考えが生まれるような課題設定などが考えられます【図2】。

つまり、同じ話し合いの場面であっても、重視する視点によって、話し合いの仕方や教師の指示、課題の設定等も変わるなど、更なる工夫や配慮が生まれてきます。

重視する視点によって取り組み方が変化する

どの視点を重視するかについては、クラスの実態や教科の特性などを踏まえることになりますが、学校教育目標や目指す児童生徒像との関係を意識する必要があります。「どんな子どもを育てたいか？」まずはそれを共有し、全員で必ず取り組む「視点」の共通実践につなげましょう。

そして、一単位時間に組み込む視点は1つ。どの視点も大切ですが、生徒指導を意識しすぎると教科のねらいが不鮮明になります。授業はあくまでも教科指導が中心。その中に少しでも生徒指導を組み込むというくらいが良いでしょう（ただし、必ず）。



【図2】意図的に組み込むことの例

意図して組み込んだ結果を見取る

意図して組み込んだ工夫や配慮の結果を子どもの姿や声から見取り、検証することも大切です。意図して取り組みれば、取組が効果的であるかどうか？きっと知りたくなるはずですよ。

いろいろな方法が考えられますが、授業の「振り返り」を充実させることも有効だと思います。「三角形の内角の和は180° だと分かった」など、従来の教科の狙いに沿った振り返りに加えて、「なぜ、分かったの？」と子どもの振り返りを掘り下げる声かけをすることで、例えば「友達の考え方を聞いたから分かった」となれば、共感的な人間関係が育まれた可能性が読み取れます。

場合によっては、重視した生徒指導の視点に沿った振り返りの観点をあらかじめ示したり、視点に沿う内容で書けている子の振り返りを全体に紹介したりするなどすれば、更に効果的かもしれません。

振り返りを振り返る



『提要』のダウンロードはコチラ

POINT

「意識する」＋「意図的に組み込む」で教師が変わる
振り返りにも生徒指導の視点を盛り込む